

平成28年度第2回新居浜版 CCRC 推進協議会

日時：平成28年7月21日 19:00～21:00

場所：新居浜市役所 大会議室

出席：神野委員、川端委員、土岐委員、佐藤委員、秦委員、加藤委員、曾我部委員、森委員（河野委員代理）、谷本委員、田所委員、白石委員、笠松委員、東淵委員、吉川委員、篠原委員、伊藤委員

1. 開会

2. 座長指名

3. 事務局（コンサルタント）紹介

4. 議事

(1) データ等から見た新居浜市における CCRC 事業の展開イメージ

※事務局より資料説明

曾我部委員：アクティブシニアの対象年齢は決まっているのか？

事務局：決まっているわけではない。国は50代からとしているが、新居浜市ではどこをターゲットにするかも含めて構想で検討する。

曾我部委員：50年間という試算を踏まえると40代からとなるのではないか。

事務局：県が行った試算結果を引用しており、試算するための条件設定として、50年という期間を定めただけなので、50年にとられる必要はない。

森委員：新居浜市に縁がある人とは、どこから抽出しているのか。

事務局：昨年度、県が実施した一般のWEB調査、愛媛県にゆかりのある方（県人会・いはいま倶楽部など）を対象とした郵送調査の中から新居浜市に関わりが深いと回答した人を抽出している。

土岐委員：移住意向のない人の傾向や分析はあるか。不便な部分など。

事務局：県が実施した調査なので、そこまでの深堀はしていない。

曾我部委員：保険料や税金シミュレーションがあるが、もし都市部より新居浜市に住むことで本人負担が安くなるのであれば、PRのポイントになると思う。

東淵委員：シミュレーションの100人は条件設定の数値と考えてよいのか。新居浜市で目標と設定しているものはあるか。

事務局：昨年度策定した総合戦略において、平成31年までにCCRCに100人の移住者を受入れるという目標は設定している。

佐藤委員：このシミュレーションは新居浜市特有か。全国的な傾向か。また、介護・医療費の負担が少ないような印象を持つが。

事務局：新居浜市の現状を踏まえたシミュレーションである。経済効果などは市町によって状

況が異なるので規模や傾向は異なる。介護・医療費は、全ての人が要介護になるわけではなく、現状のデータを踏まえると、要介護になる人は1割強にとどまるという試算。その費用は、本人や、国・県・市も負担することになるが、市が負担する金額として結果が出ている。

東淵座長：地域の担い手の確保について、ニーズは確認しているか。

事務局：現時点で、明確な数値は持っていないが、今後実施するアンケートの設問に入れられるか検討する。ただし、設問数の制限により確約はできない。

曾我部委員：受け皿としては、産業界から求める人材を出していく必要があると思っている。

吉川委員：シミュレーションの意味、設定がよくわからない。アンケート結果と方向性も合致していない気がする。100人を目指すのが、50人だったら失敗・赤字なのか。何をシミュレーションしたのかよくわからない。

事務局：このシミュレーションは県が昨年度実施した結果であり、新居浜市で今後進めていく方向性を踏まえたものではない。あくまでも参考的な数値として、移住による財政負担が大きいわけでもないということを示している。アンケート結果についても、これらの声を踏まえて、新居浜市ではどう進めていくのか、ターゲット設定をするのか検討していただく参考資料、材料としてお示しした。

吉川委員：どんな人に来てほしいか希望を言ったところで、実際には集まらないのではないか。前回の研修は、多世代のコミュニティをつくるべきという内容だった。一般の移住であれば、こんな人に来てほしいと言えると思うが、CCRCで多世代コミュニティをつくっていくのに、どんな人に来てほしいかこの場で決めるは違うのではないか。どんなターゲットを設定するとどういうシミュレーション結果が出るのか、パターンを分けて提示してもらわないと議論できない。何もない中で、新居浜市で決めるというのは無理だと思う。

(2) コンセプト・展開イメージの検討

※事務局より資料説明

伊藤委員：今回の計画において、数値目標があるのか。コンセプト等があって数値目標を考えるのか、数値目標があってコンセプト等を検討していくのか。

事務局：総合戦略の中で、KPIとして平成31年までに1件のCCRCを導入する。それに伴う100人の移住を目標数値として設定している。

吉川委員：100人の移住により、50年間の人口減少に歯止めがかかるのか。

事務局：人口減少対策については、CCRC以外の様々な移住施策とあわせて総合的に取り組んでいく。CCRCの影響は小さいかもしれないが、一つの新たな施策として取り組んでいきたい。

吉川委員：目標値の100人は、特定のエリアで100人なのか、市全体で100人なのか。

事務局：CCRCにもまち全体で取り組むタウン型と特定のエリアを決めて展開するエリア型があり、新居浜市がどちらで進めていくか、この構想で決めていく。

吉川委員：エリアで100人とまち全体で100人では、インフラ整備効果は異なる。まち全体で100人来て、バス路線など変わるわけもないのに、変わるという前提のシミュレーショ

ンをもとに話をすることはおかしいと思う。ごまかしがあるように感じる。

伊藤委員：そこは、CCRCが出来たときの波及効果として考えられるのでは、という部分だと思う。

提案型のまちづくりとは、CCRC自体が提案型のまちづくりなのか、CCRCを導入することで新居浜市全体を提案型まちづくりとして推し進めていくのか。それによって、ICTなどアイデアの出し方も変わる。

事務局：資料を作成する上では、ある程度のエリアを想定していたが、その部分を含めて意見があれば、検討を進めていく。

東淵座長：多様な事業主体にコミットしていただくことが必要。それぞれがメリットを享受できる形に設定していくことが必要。

〔ターゲットについて〕

東淵座長：これまでの議論を踏まえると、知識経験を持って、かつ就労・起業したいというアクティブシニアが基本線かなと思われる。

笠松委員：新居浜市は全国的にも特殊な場所、工業の歴史と文化、そこに基づく生活などがある。幅広い意味でも、企業城下町として移住対象者を広げる議論をしてはどうか。海や山など非常に魅力的な場所が多数ある。働く方だけでなく、新居浜市の特色や魅力に興味や関心のある方も対象者に含めてはどうか。

土岐委員：3点疑問がある。1点目は、企業城下町版って何なのか。イメージの共有が必要ではないか。私は、企業城下町には、仕事があり、そこに技術、専門家がいるものというイメージがある。転勤族全員が対象ではなく、技術や専門知識を持った方が対象かなと。2点目は、CCRCと普通の移住で何が違うのか、その区別がつくものなのか。3点目は、資料では街の魅力を引き上げて移住者を呼び込むような印象を受けるが、あまりにも要素が多すぎてそれらを全て充実させることは難しい。街の魅力をあげてCCRCを作りあげていくのか、それとも特にインセンティブなどもなく、ターゲットに働きかけてPRしていくのがCCRCなのか。

事務局：企業城下町版という点は、住友グループがあることで仕事がある、転勤により新居浜市にゆかりのある人が全国にいるという利点を活かし、仕事という資源・魅力でこの取組みを始めるという着想があった。仕事は一つのポイントと考えている。

加藤委員：これまでの移住は、第一が田舎暮らし、第二に仕事で、結局仕事がなく都市部に戻るといったパターンが多かった。今、重視されるのは、仕事があった上での田舎、地方暮らし。その適性地として、松山や新居浜は、非常に合致していると言われている。新居浜は住友があり、100年以上の歴史があり、産業が根付いている。そこが企業城下町といわれる部分で、地方移住で大切な「仕事」がある部分が強み。産業があって、都市機能もコンパクトに集積している新居浜市は、CCRCの適性地だと思う。合計特殊出生率が減少している中で、このような事業一つ一つを大切に、まずは取組んでいくことも必要だと思う。

東淵座長：ターゲットとしては、歴史や自然に興味がある方も含めて、働く意欲がある方としたいがどうか。

笠松委員：アンケート調査結果を見ると、4割の方は働く意欲はないので、それらの方々がタ

ターゲットから外れることになるのか。

東淵座長：排除するというわけではなく、優先順位として働く意欲のある方をまずはターゲットとして設定したい。様々なニーズがある中で、全てに対応することは資源的に難しく、ターゲットを絞り込むことで、必要な整備や準備が整う。その形ができれば、それ以外の方も幅広く魅力を感じて来てくださる。そういった形で魅力のあるまちができていくと理解していただければと思う。

事務局：CCRC と通常の移住の違いに関しては、通常の移住促進としては、平成 27 年度から市役所に移住相談窓口を設置し、年齢を問わず移住に関する相談に対応している。CCRC に関しては、今後の検討内容にもよるが、行政以外の様々な組織の方に関与していただき、移住者に関する仕事や地域活動など様々なサポート体制をつくり、移住を促進するという違いがあると考えている。

〔アクティブシニアの移住による期待、地域のリソースについて〕

佐藤委員：ターゲットは、定年後の 60 代など、年金もあり、収入よりもやりがいを求める方々と考え。その上で、必要な機能は、医療や健康、介護面でのサポート体制や仕組みなどが求められると思う。

白石委員：創生会議で松山・新居浜の名前があがっているのは、施設の数として余力があるということだと思う。しかし、財政難や地域包括ケアの方向性を踏まえると、互助の精神が重要になっており、生活支援サービスも専門事業者だけでなく自治会など様々な形で地域を支えるという形になっていくので、ボランティア精神のある方に移住していただければ、これからの地域づくりに心強い。

東淵座長：地域の支えあいにコミットいただける方ということですね。

篠原委員：女性・奥様方にアピールできる点として、文化活動がある。県下でもさかんな地域。企業城下町という文化がないと思われるが、あかがねミュージアムもでき、文化も PR でき、協会として協力できる部分はある。奥様・女性が楽しむ文化活動がある点は PR ポイントになる。

〔各委員より意見〕

伊藤委員：ターゲットは仕事をしたい人・働きたい人、かつ“〇〇〇”というターゲットが必要。住民からすると少子高齢・人口減少の中、40～50 代の担い手となる方、まだこれからという方も呼び込むことも考えた方がよい。60 代以降の方に対しては ICT・IOT を活用した健康支援のデータベースやシステムをつくり、支援していくことも考えられる。その他の場面でも ICT・IOT を駆使していけば、提案型のまちづくりにもつながる。

篠原委員：女性については、東京から迎える場合は、新居浜よりも高い文化レベルの方もいる。それらの方々から学ぶというメリットもある。

吉川委員：企業城下町版 CCRC はよいと思う、やるべきだと思っているが、この会議の進め方が分からない。この議論も、事前にもしくは次回の宿題としてほしかった。

また、団体や委員として色んな意見を出すことは可能だが、ターゲットを決めるなど、この会議で決めることかと疑問がある。

笠松委員：ターゲットは幅広く考えた方がよいと思う。女性の自己実現を目指すなど。女性にアピールするには、これまでの人間関係を切って、旦那についてくることがストレスになるので、奥様の友達や知り合いを呼べる魅力をつくっていくことだと思う。

白石委員：ターゲットは50代ぐらいがいいと思うが、それらの方にとっての魅力が新居浜にあるのか分からない。新居浜の魅力の重点をどこに置くかが大切だと思う。

田所委員：総合病院は恵まれているが、若い先生が急激に減少している。新居浜市から毎年3名程、医学部に入っているが、戻ってこない。医師会としては、若い医師の呼び込みを積極的に行っている状況がある。

谷本委員：政府系金融機関として、起業・創業の支援ができると思う。CCRCが実現することで、それを取り巻く周辺産業やソーシャルビジネスも出来てくると思う。CCRCの形としては、特定のエリアのコミュニティというイメージをもっている。シニア層だけの移住ではビジネスも難しい面があるので、若い方にもコミュニティの近くなどに移住していただき、飲食店を開くなどの方向性ができれば、まちの賑わいの創出など、いい形になってくると思う。女性については、男性の創業は金儲けが多いが、女性の創業は夢の実現、社会貢献が多い。女性の創業により地域やコミュニティに貢献したり、女性の雇用創出のメリットもある。それらをサポートしていきたい。

森委員：これまでの話を聞き、アクティブシニアのイメージとして、経済的に余裕がある人が思い浮かぶが、他市の差別化の中で、そのような方にきていただくことは難しいと思う。新居浜市は、様々な業種の産業があり、どの人でも働けるチャンスがある。年金では少し生活費が足りないなど、退職後も働かざるを得ない人をターゲットにして、働きかけていってはどうか。仕事があり、都会よりも生活コストが安く、レジャーや趣味も楽しめるという点での需要はあると思う。定年前からの受入れもありうる。

曾我部委員：アンケート調査結果等を見ると、シニアの移住需要があるのか、少し疑問がある。雇用の面でみると、中小企業は雇用が取れない状況があり、雇用の受け皿は十分ある。40代以降を取り込めるような、新居浜市の魅力や利点をPRしていく必要がある。

加藤委員：住宅購入の際は女性が主導権を握っているのだから、移住においても、女性向けにイメージアップにつながるPRをしていくことが大切。新居浜市出身だが、転勤で外に出てみると新居浜市の魅力がよく分かる。新居浜市のアドバンテージを羅列・整理してみて、活かし方を検討してみてはどうか。

新居浜市なら、住友グループの不動産も活かしながら、観光都市づくりも夢ではない。観光プロジェクトなどプロジェクト型の人材誘致も支援できる。ポジティブな発想で何ができるか考えていくべき。

秦委員：ターゲットとして、知識経験を持った働く意欲のある方を産業界としても歓迎する。先ほども話があったが、地元の中小企業は、雇用者が集まらない。地元企業のニーズに合致できる人に来ていただき、地元の中小企業の雇用にも貢献してもらえればと思う。マッチングが重要になる。

佐藤委員：個人的な意見だが、世界的に富裕層の高齢者を呼び込もうとしている。富裕層は、ただ遊びに行くだけではつまらない。仕事を絡めての生きがいや、人生に色を添えるというのがCCRCの意義と考える。若い人でもよいが、60代で、収入に余裕があって何かを

求める人を、まずはターゲットとして優先的に検討した方がいいと思う。

土岐委員：新居浜に本社があつて、地元で雇用しているため、直接的な貢献は少ないと思う。

期待すること・ターゲットとしては、まち全体のものづくりのレベルアップに貢献していただける方が理想的。労働人口減少への対策にもなる。

定年後に家を建てる人は少ない。転勤時に新居浜に家を建て、戻ってきていただくという仕組みや支援もあるのではないか。

川端委員：個人的な意見だが、新居浜出身者は、大学進学で外に出て戻ってこないことが多い。

企業も自然もあるが、学業から就職に至るまでの間の足止め、新居浜で少しでも長く過ごしてもらえるよう、教育施設の充実も必要だと思う。

神野委員：企業の立場として、新居浜で勤務し、都会に転勤し、将来、新居浜に戻ってきてもらえるということが理想的。技術力やノウハウを持った人が、地元の中小企業でその技術力を活かし、住友各社にその技術力を提供することで、産業界、経済界が発展していくと思う。その辺を企業として期待したい。

東淵委員：追加意見等については、事務局よりメールを送付するので、そこに返信いただく形でお願いしたい。

以上で、議事を終了する。

5. 連絡事項

※事務局より、住友3社へのアンケート調査の実施、今後の協議会スケジュールについて報告・連絡。

6. 閉会

以上